

道路に係る要望活動

■1月11日(水)名岐道路の早期整備を要望

要望先：大野国土交通大臣政務官、武藤国土交通事務次官 等

訪問者：愛知県、一宮市、岐阜市、名古屋商工会議所ならびに周辺商工会議所、中経連 等



大野国土交通大臣政務官に要望書を手渡しする訪問者たち

<主な要望内容>

栗原中経連常務が中西愛知県副知事、中野一宮市長等とともに、大野国土交通大臣政務官をはじめ国土交通省幹部に面会し、名岐道路の早期整備を要望した。

名岐道路は、一宮市と岐阜市とを結ぶ全長約10kmの地域高規格道路で、既に供用されている名古屋高速道路との直結により、名古屋市と岐阜市を短時間で結ぶとともに、国道22号一宮市内の慢性的な渋滞の解消や、名神高速道路(一宮JCT～一宮IC付近間)の渋滞解消にも寄与することが期待される。

■1月20日(金)浜松三ヶ日・豊橋道路の早期整備を要望

要望先：根本国土交通大臣政務官 等

訪問者：愛知県・静岡県・豊橋市・浜松市等沿線自治体、豊橋・浜松商工会議所、中経連 等

<主な要望内容>

中経連は、石原愛知県副知事、佐原豊橋市長、神野豊橋商工会議所会頭等とともに、根本国土交通大臣政務官に面会し、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期整備を要望した。

浜松三ヶ日・豊橋道路は、東名高速道路や新東名高速道路、さらには三遠南信自動車道などと

三河港を一体的に結びつけ、地域の活性化、産業の競争力強化などに寄与するとともに、防災面でも広域の救命・救急活動や緊急物資輸送の拠点機能を担うことから、早期整備について要望を行った。

■1月30日(月)名古屋環状2号線の早期整備を要望

要望先：武藤国土交通事務次官 等

訪問者：愛知県、名古屋市、飛島村、名古屋港管理組合、名古屋商工会議所、中経連 等

<主な要望内容>

栗原中経連常務が、河村名古屋市長等とともに、国土交通省幹部に面会し、名古屋環状2号線西南部・南部区間の早期整備を要望した。

名古屋環状2号線は、未整備区間である西南部・南部区間の開通により、物流の効率化や資本ストック効果、さらには観光での利用促進に寄与するとともに、南海トラフ地震などの大規模災害時には、沿線地域への緊急搬送路としての役割も期待されている。

同区間は、現在、工事が進められているが、今後、さらに国の予算が確保され、一日も早い整備が進められるとともに、開通時期の早期公表をお願いした。

(社会基盤部 山口 智)

東三河地域会員懇談会

1月18日(水)、中経連は現在の事業活動全般に対する意見交換を目的に、東三河地域の会員と懇談会を開催した。参加者からいただいた意見を踏まえて、今後の事業活動、来年度の事業計画に反映させていく。

<参加者からの主な発言内容>

- 三遠南信自動車道の早期整備を引き続き推進してほしい。
- 豊橋は新幹線、港があるものの、新東名高速道路・東名高速道路との接続が悪く、交通アクセスを改善してほしい。

- 新東名高速道路が開通し、新城へは名古屋から1時間で来られるようになった。リニア中央新幹線の飯田駅からも三遠南信自動車整備されれば1時間かからない。例えば、新城ラリーを将来は世界大会にするなど、奥三河をアウトドアスポーツのメッカとしたい。
- 海外の企業と共同研究するときに、どういう考え方に基づいて契約をするか、大学にはノウハウが乏しい。海外経験の豊富な企業のアドバイスを得られるとありがたい。
- 企業・人材プールについて。企業からの講師派遣は大変重要。学生はもちろんだが、大学の先生の意識改革も重要。
- Next30産学フォーラムの豊橋開催はありがたい。今後も定期的に開催してほしい。
- 人材確保に苦勞している。学生が地元で進学・就職してくれる、或いは、進学では東京・大阪に出ても就職では地元に戻ってくるような取り組みを進めてほしい。

(総務部 伊藤 康隆)



在大阪英国総領事 表敬訪問

1月24日(火)、昨年10月に在大阪英国総領事に就任されたセーラ・ウテン氏が中経連を訪れ、小川専務理事と懇談した。

ウテン氏は「私が名古屋に在住していた約15年前に比べ、名古屋のまちの様子はどんどん変化している。名古屋を含む中部は交通の便が良く、経済・産業・観光の地として魅力的だが、知名度は低いので、海外にもっとPRしていきたい。また、中部が力を入れている航空宇宙産業はイギリス企業も注目している。残念ながら10年前に名古屋の英国

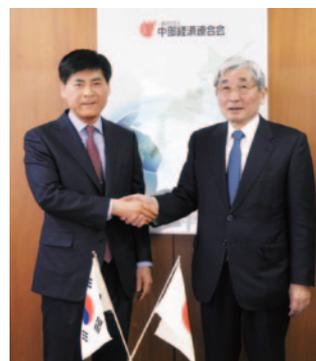


領事館はなくなってしまったが、大阪では中部・関西を管轄とするため、領事館をもっと活用してほしい。イギリスの大学・産業と連携し、中部での活動を広げていきたいと思っており、今後とも協力をお願いしたい」と述べられた。

小川専務理事は、「航空宇宙産業はもちろん東京五輪やリニア中央新幹線開業を機に、中部をはじめ日本全国を発展させていきたい。また、今後は観光にも一層力を入れていくので、イギリスの方たちにぜひ中部の観光をPRしていただけるよう、今後とも連携していきたい」と発言した。

(国際部 平山 りえ)

駐名古屋大韓民国総領事 表敬訪問



1月27日(金)、昨年11月に駐名古屋大韓民国総領事に就任された鄭煥星氏チョンファンソンが中経連を訪れ、豊田会長、小川専務理事等と懇談した。

鄭氏は、「総領事に就任し、経済活動で韓国と中部の協力をさらに深化していきたいと思う。特にインダストリー4.0に対する中部の動きに注目している。今後、『日韓経済フォーラム(仮称)』の開催を計画しており、両国の企業が経済・投資の可能性について話し合う場ができれば良い。その際は、連携・協力をお願いしたい。また、韓日中で一層の経済協力・連携を図っていきたい。観光については、日本から韓国への観光

が低迷している。中部の人は購買力があるので、もっと韓国へ観光に来てほしい」と述べられた。

豊田会長は、「中部はものづくりを中心とした経済活動で海外と協力することが多い。アジアの国々が協力すれば、これまで以上に生産性をあげていけるので、今後も連携を強化していきたい。また、韓国の食文化が日本人に人気なので、そういった面から日韓の人的・文化的交流を発展させていけると良い」と発言した。

(国際部 平山 りえ)

平成28年度 国土政策フォーラムin愛知 我が国の成長を牽引する中京大都市圏づくり



1月31日(火)、愛知県、国土交通省国土政策局、国土交通省中部地方整備局、中部圏広域地方計画協議会主催の国土政策フォーラムが名古屋市にて開催され、中部圏広域地方計画協議会会長として中経連の豊田会長が主催者挨拶を行うとともに、小川専務理事がパネリストとして登壇した。

豊田会長は、「産業界におけるIoTや人工知能など目覚ましい速度で技術開発が進む中、産業界、自治体など中部圏全体が一体となり、一層の『スピード感』を持って、実効性のある取り組みや変革を進めていくべきだ」と述べた。

パネルディスカッションでは小川専務理事が、「グローバル競争や技術開発などの大潮流の中、中部のポテンシャルをさらに磨き、多くの人を訪れる『大交流』をつくっていくことが不可欠であり、



具体的には『ものづくり』から『ことづくり』への変革に向けた交流イノベーション拠点の創設や、マーケティングを重視した観光戦略、人材確保のため

の定住促進策などが重要。また、日本の中央に位置する特性を活かし、物流拠点の一層の誘致などについても今後さらに期待できる」と述べた。さらに、これらの施策の基礎として、「交通インフラの整備が重要であり、早期に交通ネットワークが完成することを期待する。また、物流コストの削減などに寄与するような高速道路の料金体系の構築など、既存インフラの見直し、活用も必要だ」と述べた。

(社会基盤部 山口 智)

第8回中部コーディネータ研究フォーラム

2月3日(金)、中経連は「第8回中部コーディネータ研究フォーラム」を開催し、中部5県のよろず支援拠点コーディネータ、支援機関・大学のコーディネータ、中堅・中小企業支援に関する有識者・研究者など16名が参加した。

本フォーラムは、中部圏各地で中堅・中小企業支援をしているコーディネータのネットワーク強化と企業支援力の一層の向上をねらい2015年3月に設立したものである。

はじめに、山形大学大学院准教授の柘紫乃氏ひいらぎから、「景気停滞機・減退期における現場改善会計」と題し、現場改善会計(改善効果の見える化)が原価低減に直結しなくても、それを「将来への可能性」と捉え、人材育成や経営改革に活かすべきという考え方が紹介された。

続いて、(株)マルト水谷社長の梶田知氏さとるから、アメーバ経営の導入、トヨタ生産方式による現場改善、そこから生まれた資源を活用して開発した新事業「速達生」(新鮮なビールを工場出荷後2日以内に店舗に届けるサービス)など、従来の「酒屋」



(株)マルト水谷社長の梶田知氏によるご講演の様子

から「飲食店繁盛支援業」に発想を転換し取り組んできた事例などを交えてご講演いただいた。

本フォーラムでは、これまで主に製造業を題材に実施してきたが、今回はサービス業における事例紹介とディスカッションを実施した。参加者からは、「大変興味深かった」「コーディネータの仕事をするうえでいい気付きが得られた」などのコメントを多数いただいた。

次回は4月に開催する予定である。

(産業振興部 佐々木 彰一)

米国経済への貢献をしっかりと訴えていくことを求めた。

次に、中経連の活動を3件案内した。1月から3月にかけて実施している「地域会員懇談会」については、会員からの意見とともに紹介。「地域の生の声を聞く機会を増やし、地域とともに諸課題の解決にあたりたい」と抱負を語った。月内に開催予定の中経連主催行事「東海地方経済懇談会(8日開催)」、「中部の未来を考える会(27日開催)」については、テーマや出席者を案内し、取材を呼びかけた。

その後、経済委員会の委員長を務める水野副会長が、同委員会で取りまとめた提言「中部圏のサービス産業の稼ぐ力の向上～生産性を上げる～」を公表し(本誌2～3ページ参照)、「わが国経済に占めるサービス産業のウェイトが高まる中、同産業の生産性向上はわが国の重要課題である」と訴えた。本提言では、生産性向上には事業者の自助努力とともに、商工会議所や金融機関などの支援、行政によるバックアップが必要であるとし、3者に向けて多様な切り口から具体策の提起を行っている。

(総務部 奥田 知子)

定例記者会見

2月6日(月)、中経連は総合政策会議終了後、豊田会長の定例記者会見を行った。

はじめに豊田会長は、トランプ新政権の動きについて、「人や物の自由な往来の確保は、経済活動を円滑に進めるうえで欠かせない。影響を懸念している」と述べ、日本政府に対しては、自動車産業の



中部の未来を
ともに考え
行動しませんか

会員増強に
ご協力
ください

新入会員大募集!!

中経連は、平成27年より入会金制度を廃止いたしました。つきましては、仲間をもっと増やし、これまで以上に地域の期待に応え、より大きな成果をあげていきたいと思っております。会員の皆様におかれましては、ぜひとも新しい仲間をご紹介いただければ幸いです。何卒ご協力をお願い申し上げます。

【問い合わせ】総務部 伊藤 TEL 052(962)8091